

第2問

次の有価証券に関連する取引（20X5年4月1日から20X6年3月31日までの会計期間）の〔資料〕にもとづいて、問1～問4の各問に答えなさい。なお、売買目的有価証券に係る記帳は分記法によるとともに、決算にあたっては英米式決算法で締め切ること。本来は赤で記入すべき箇所であっても、そのまま黒で記入してよい。

〔資料〕 有価証券関連取引

| 取引日 | 内 容 |
|--------|--|
| 4月1日 | 売買目的で額面総額 ¥30,000,000の国債を額面 ¥100あたり ¥99.55にて購入し、代金は2日後の受渡日までの経過利息（1年を365日とする日割計算、¥55,800）を含めて2日後に支払うこととした。なお、この国債は20X4年1月1日に発行され、利払日は毎年6月および12月の各月末日、利率は年0.73%、償還予定日は20X8年12月31日である。 |
| 6月30日 | 上記国債の利払日を迎え、当社の普通預金口座に所定の利息（月割計算）が振り込まれた。 |
| 8月29日 | 上記国債のうち額面総額 ¥5,000,000分を額面 ¥100あたり ¥99.25にて売却した。代金は2日後の受渡日までの経過利息（1年を365日とする日割計算、各自算定）を含めて2日後に当社の普通預金口座に振り込まれる予定である。 |
| 12月31日 | 上記国債の利払日を迎え、当社の普通預金口座に所定の利息（月割計算）が振り込まれた。 |
| 3月31日 | 本日決算日を迎えた。上記国債の時価は ¥100あたり ¥99.45であった。また、利息（月割計算）に関する決算整理仕訳とともに、必要な決算振替仕訳も行うこと。 |

問1 総勘定元帳の売買目的有価証券勘定、および有価証券利息勘定への記入を行いなさい。摘要欄で使用する勘定科目等は次のものを使用すること。

普通預金 売買目的有価証券 未収入金 未収有価証券利息 繰延税金資産
 未払金 有価証券利息 有価証券売却益 有価証券評価益 有価証券売却損
 有価証券評価損 損 益 諸 口 次期繰越 前期繰越

問2 当期の有価証券売却損益はいくらになるか。答案用紙の（ ）に損または益の文字を記入したうえで金額を答えなさい。

問3 仮に、上記〔資料〕で4月1日に購入した国債を満期保有目的で取得し、その後一切売却せずにそのまま期末を迎えた場合、満期保有目的債券勘定の次期繰越額はいくらになるか。ただし、額面金額と取得価額の差額の性格は金利の調整であると認められるため、償却原価法（定額法）を月割計算にて適用すること。

問4 仮に、上記〔資料〕で4月1日に購入した国債を長期の運用をするためその他有価証券として取得し、その後一切売却せずにそのまま期末を迎えた場合、その他有価証券評価差額金勘定の次期繰越額はいくらになるか。ただし、次の要領で算定すること。

- ① この国債の額面金額と取得価額の差額の性格は金利の調整であると認められるため、償却原価法（定額法）を適用し、月割計算による償却原価と時価の差額を評価差額とする。
- ② 評価差額については全部純資産直入法によって処理する。
- ③ 税効果会計を適用し、法定実効税率は30%とする。
- ④ その他有価証券評価差額金の勘定残高が貸方に生じる場合は貸、逆に残高が借方に生じる場合は借を（ ）内に記入すること。